

Design of streetscape in historical district toward development of INO.

Infrastructure Systems Engineering Course

1095512 Ayaka Soen

After the war, our government attached importance to quantitative social capital improvement than quality. But the government had another look at this policy in recent years, instead The quality was weighed that to built about the Area history, tradition and culture.

INO town is known as birthplace of TOSAWASI and this history is more a thousand years. This town has NIYODO river is best of clarity in Japan and this environment is great good for planting KOZO. KOZO is basic ingredient of TOSAWASI.

This history and tradition highly admired by nation and INO town is did research for 'Preservation Districts for Groups of Historic Buildings' in 1998. However they had some problems so this area couldn't make the selection at that point in time. This causality,

1. There were few traditional houses.
2. Traditional houses didn't preserve to continue.
3. INO people was lacking interest in this system.

Then nine years later, the traditional houses are coming down because there are become older, reinforced concrete housing rehabilitation or change parking area.

This purpose is proposed through design of streetscape in historical district toward development of INO.

The project is complex facility ; rehabilitation of TOSA line station, building a collective housing and shops. The design of these buildings use the style of architecture which is INO traditional design "the Mizukirigawara"and"the TOSA Sikkui". Other suggestst are setting few pocket parks and using another law for preserving traditional houses.

Keyword ;

landscape, historic districts, traditional design, TOSA line station, streetscape, pocket park, Japan's Preservation Districts, collective housing

歴史的町並みを活かしたまちづくり

伊野地区の活性化に向けて

— Development and Design of INO Historical District —

社会システム工学コース 1095512

宗円 彩可

■目的・構成

本設計は、現在失われつつある伊野地区の歴史的町並みを活かして景観デザインの観点からまちの活性化を図ると共に後世に残すべき歴史的資産や文化を受け継ぎ伝える提案である。現在あるサニーマートの店の敷地を利用し、老朽化が進み廃れていく土電いの駅の再開発と、居住人口を増加させる為の集合住宅と、いの町の特産品である土佐和紙を活用した店舗やSOHOの設計を行う。伊野地区の伝統的なデザインを用いる事で他のまちには真似できないまちの個性を創ることができると考える。そしてこの提案により、住民が自分たちのまちの魅力に気づき、より良いまちづくりに取り組む事を目標とする。

本修士設計は10の章で構成されている。第1章では背景と目的、伊野地区の位置について、第2章ではいの町の概要、第3章では

上位計画と関連計画についてまとめている。第4章は現況と課題点、第5章ではそれについての解決策を提案し、まちづくりのテーマやコンセプト、デザインの基本方針について述べている。第6章で設計にするにあたってのボリュームと配置検討を行い、第7章で検討した結果に基づき複合施設とポケットパークの設計を提案している。第8章では事業費と交付金について述べ、第9章で経済効果を算出し、最終章でまとめている。

■伊野地区の位置

設計対象地区は、平成10年に吾川郡伊野町伊野地区の伝統的建築物群の調査が行われた約1kmの地域と国道33号線と主要地方道の幹線道路に囲まれたエリアとする。



図1. いの町伊野地区の位置

■歴史

伊野地区の町並みは和紙の発展と共に形成されていった。製紙業の最盛期は江戸末期から明治にかけてで、仁淀川沿いは物資を輸送する為の河港として繁栄し、町中はそれを取り引する商人によって繁栄した。明治22年には高知～伊野間の四国新道が開通し、同41年に高知～伊野間の土電伊野線が開通し、在郷町伊野としての現在のまちの基盤ができた。

■上位計画・関連計画

1. 高知広域都市計画区域マスタープラン 平成15年
2. いの町建設計画 平成16年
3. 高知都市圏総合都市交通計画 平成12年
4. HOPE 計画 昭和63年

■地区の現況

伊野地区は、日本一透明度が高いといわれている仁淀川と楮の栽培に適した気候により、和紙づくりが盛んに行われた。江戸末期から明治にかけて最盛期を迎えるが、大正で機械化が進み衰退していく。伊野地区の歴史的町並みはこういった経済的背景のもとで形成されていった。

平成10年に伊野地区伝統的建造物群保存対策調査が行われるが、保存地区として選定されなかった。原因は次の3つにある。

1. 伝統的建造物の数が全体的に少ない。
2. 連続して伝統的建造物が残っていない。
3. 当時、伝統的建造物を保存しようとする住民の意識が低かった。

調査が行われてから8年経った現在、保歴史的建造物が老朽化等の理由から建て替えられたり、空き地、駐車場と姿を変えつつある。また、地区内は少子高齢化が進み、人口の減少も問題となっている。それに伴い、土電いの駅舎が老朽化し、周辺も寂れてきているのが現状である。

■課題点と解決策

現在、いの市役所の前にはスーパーマーケットがあるが、近日この2キロ先に大規模スーパーが建設された。また、国道33号線の渋滞緩和を図る為に新道の建設も行われており、地区は益々寂れる恐れがある。あるいは、敷地周辺は施設が充実しているため、他の事業、例えば16階建てのマンションの建設も可能性となる。

歴史的町並みにも近い事から、まち歩きの入り口として重要な場所であると考え、複合施設の敷地に決定した。

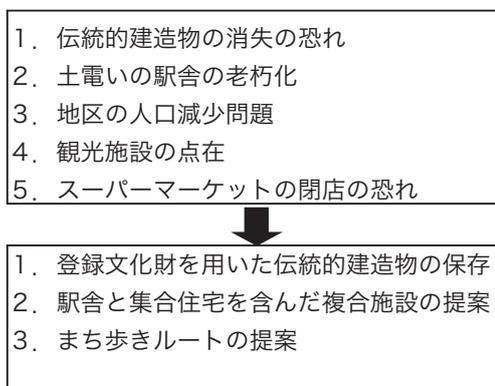


図2

■コンセプト

歴史的町並みの創造を行うと共に住民や観光客によるにぎわいを創出することで経済的活性化を図る。それにより既存の歴史的町並みに住民の意識を向け、まち全体に魅力あるいの町らしい町並みを創造する。

■デザインの基本方針

歴史的町並み様式を尊重デザイン方針を次のように決める。

1. 屋根勾配は5～5.5/10にし、適度な軒の出とする。
2. 壁は土佐漆喰を用いる。
3. 壁面には水切り瓦を用いる。
4. 高さは3階建て以下とする。
5. 窓には格子を付ける。
6. 2階が低い場合には虫籠窓にする。
7. 室外設備は目立たない位置に設けるか修景措置を行う。

■設計

○土電いの駅

いの町を訪れた人が最初にいの町のイメージを持つ場所として、まちの特徴や個性を生かした伝統的な建物にする。駅周辺には特産品売り場、店舗、観光案内所、食堂、集会場を設ける。

○SOHO・併用住宅

JR伊野駅から来た人にとってはエントランスになるため、歴史的町並みを創る。エントランスとしてポケットパークを設ける事で、自然に人の流れを創る。

○集合住宅

外観は伊野地区の歴史的町並みに調和するデザインにし、内装は現代人にとって住みやすい間取りとする。

○駐車場

国道沿い配置する。自動車で来た人にとってもこの場所が入り口となる。



図3. 駅舎のホーム

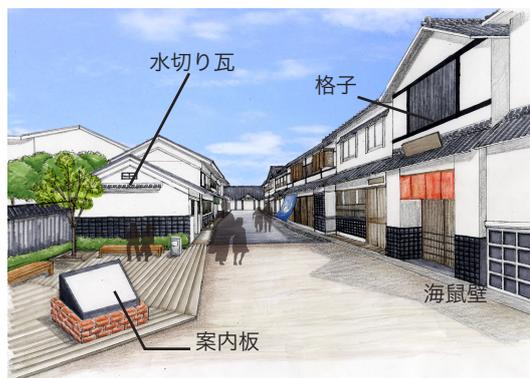


図4. SOHO・併用住宅・エントランス



図5. 全体図

■まち歩きルートの提案

点在する観光施設を繋げる為に、ままち歩きルートを提案する。それにより、自動車からは見えない伊野地区の魅力を感じる歩いて楽しいまちを目指す。

まち歩きルートの中に、ポケットパークや案内板を設置する事で人の動線を誘導する。設置場所は、建物が老朽化し駐車場や空き地となった敷地を利用する。既存の石垣や樹木を用いて歴史的町並みに調和したデザインにする。



図6. ポケットパーク

■概算工事費

複合施設面積 8,600㎡の概算工事費を以下に示す。

■土木工事	小計	150,940千円
■建築工事	小計	810,252千円
	合計	961,192千円

間接工事費

間接工事費は直接工事費の0.3倍とする。

	小計	288,358千円
	合計	1,249,550千円

■まとめ

今回の設計では、伊野地区の伝統を活かした複合施設の提案をすることで、住民が自分たちのまちの価値や歴史的資産や伝統に意識を向けることを考えた。住み良い魅力ある町にするためには、自分たちの住む町に愛着をもち自分たちの手でまちづくりに取り組むことが大切である。まちの特徴や個性を表す伝統的建造物や歴史的資産はまち活性化に大きく貢献できるはずである。



図7. まち歩き MAP